

課題歌「月」

〔一 席〕

一一、 山かげにつるべ落としの日は落ちてからから滑車が月を引き上ぐ

橋本 隆司

〔二 席〕

一四、 その雲よ風を起こして月隠せ大陸逃げる母と子願う

田中 彰

〔三 席〕

三三、 辻々に山車の提灯ゆらしつつ朧月夜に引き別れて行く

滝上 一恵

四四、 ショーウィンドウに板打つ男ら照らす月デモ前日のパリの街角

小林 伸子

〔選者推薦〕

二六、 舟形の雲にとび乗り漕ぎ出でむ物憂き月の悩みを訊きに

宇田 恵美子

(評) 対象である「月」を擬人化して、雲の舟に乗って月の「悩み」をききに行こう、という詩的把握がみごとだ。

三四、 理由を説く君の横顔つまらなしたただ見む赤く大きなあの月

武藤 久美

(評) 一種の相聞歌であろう。しきりに何か言い訳する相手がつまらぬ存在となり、自分は月を見るだけ。その設定の仕方が面白い。



自由歌

〔一 席〕

二六、 ベビーカーからのぞく手足のふくふくと初夏の日差しを掴みては蹴る 宇田 恵美子

〔二 席〕

四、 青年のビシツときまる笠踊り越中五箇山麦やのまつり 本山 順子

〔三 席〕

三七、 軒下に親とはぐれし雀二羽ひそと寄り添ふまぶたを閉じて 倉坪 芳江

四四、 ゴミ袋に線香入れて封をしぬ読まずに捨てむ父の十年日記 小林 伸子

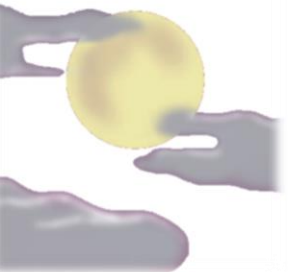
〔選者推薦〕

四、 青年のビシツときまる笠踊り越中五箇山麦やのまつり 本山 順子

(評) 青年特有の凛とした踊りの姿。流麗な調べが印象的だ。

四二、 ねじ花のピンクの螺旋を一步ずつ登っていこう吾は蟻となり 小林 伸江

(評) 「ねじ花」の小さな存在を巨大なものに変身。自分は蟻となって、その花を登って行くという発想の妙。



「飛騨神岡高校」 入 選

「平気だ」と嘘つき笑って誤魔化してそんなおまえを月光は照らす 二年 上ヶ平 渚  
人生の意味とは一体何だろう答えを探して月夜を仰ぐ 二年 守山 拓我



「吉城高校」 入 選

陸上の部活動終わりに靴をぬぐ照らすは明日への道しるべの月 一年 岡田 武拓  
雲の壁にかすかに見える月光のきれいな空をみとどけたい日 一年 清水 魁良  
枯尾花の揺れる草原の山の端に満月昇りて静かなる里 一年 野中 完樹  
サッカーの練習終えれば月明り一日が終わる光の合図 一年 深山 拳  
目の前にあるはずなのに届かない儂くひかる君は満月 一年 山下 祐華

